



# 学校だより



2020年10月30日

横浜市立港南台第一小学校

**11月号**

Email y3konan1@edu.city.yokohama.jp

Tel 832-0210

Fax 832-7771

URL <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kohnandai/>

## 「自己肯定感を高める」

校長 瀧田健二

朝晩は気温が低く、肌寒い日が多くなりました。この冷え込みが紅葉を鮮やかにするとされています。この頃は秋の深まりを感じさせます。

10月18日(日)、「一小スポーツフェスティバル」が行われました。天候不良のため一日延期の日曜日開催となりましたが、子どもたちの全力で取り組む姿は笑顔で輝いていました。後期の始業式では、「どんなことにも全力で取り組もう。全力を尽くして取り組むと、絶対に楽しいから。」という話を全校の子どもたちにしました。全力で頑張る子どもたちの姿は本当に眩しいです。

スポーツフェスティバル当日は、保護者の皆様には、子どもたちに温かい拍手と励ましの言葉を送っていただき、また準備や片付け等にも多くのご協力・ご支援をいただきました。ありがとうございました。子どもたちにとって、自分の頑張りを認められることは、何よりも嬉しいことのはずです。



どんな人間でも、他人から認められたいという承認欲求をもっています。この承認欲求が満たされると、自分という存在に自信をもつことができます。自信をもつことで、子どもたちは自己肯定感を芽生えさせます。自己肯定感とは、ありのままの自分自身でも素晴らしい存在なのだという認識です。自己肯定感が高い子どもは自分自身を大切にします。そして、自分と同様に他人も大切な存在だという認識をもてるので、人にも優しくできます。この自己肯定感を高めることは、本校の教育目標の一つでもあります。

一方で、自己肯定感が低い子どもは、自分自身に価値を見い出せません。よって、常に不安がつきまといまいます。その影響から他人に対して優しくすることができない上に、自己中心的でわがままな性格となってしまうのです。誰にも認めてもらえない自分自身の存在に混乱している状況だといえます。それでは、どのようにすれば自己肯定感が高い子どもに育つのでしょうか。答えは、良好な人間関係、特に大人の言葉かけにその鍵があります。「ありがとう」と伝えるだけで、子どもは自分の存在が認められたことによる嬉しさがこみ上げます。上から目線で指示ばかりしては、自己肯定感は育ちません。

まずは、子どもたちに感謝の気持ちを伝えましょう。子どもの自己肯定感を高めるためにとても有効です。「ありがとう」は魔法の言葉です。人から認知されることで、自分の存在自体に価値を見出すことができるようになります。そして、子どもたちへ共感の気持ちを示しましょう。子どもの話に耳を傾け、子どもと同じ気持ちになって、子どもとの間に一体感が生まれるのを感じ取りましょう。「言葉以外の非言語的な要素で93%の印象が決まってしまう」との研究結果があり、共感を示すには相手の目を見て、真剣に話を聴いてあげることが一番の近道です。相手の話にうなずいたり、相手の言葉を繰り返したりすることです。

子どもは自分の思い通りにはならないものです。ありのままの存在を認め、よいところを褒め、感謝の気持ちを伝える。行事が多く控え、学習も集大成となる後期だからこそ、褒めるチャンスがたくさんあると思います。子どもたちが自己肯定感を高められるよう、子どもを取り巻く全ての大人が、ちょっと気を付けて、言葉を選んで働きかける。そんな後期になればと思います。

# 一小 スクール ライフ

## 《日光修学旅行》

9月24日25日 6年生が日光修学旅行に、9月29日 3年生が海の公園へ遠足にでかけました。

すごい迫力だね。



湯滝

赤沼

雄大な自然だね。空気がおいしい。

雨の東照宮も美しい。

東照宮

## 《海の公園へ遠足》



ぼくが、海の公園に行って楽しかったことは、はんで貝がらをたくさん拾ったことです。大きな貝や小さな貝を拾ったりしていたら貝がたくさん落ちている所があって、そこでたくさん貝を拾いました。次に楽しかったことは、シーサイドラインです。いろいろなけしきが見えておもしろかったです。しぜんがたくさんあるところやたてものがたくさんたっている所もあって、楽しかったです。

3-1 S・H

心にのこったことは、すなの山作りきょうそうです。友だちと「ココほれワンワン」といいながら、すなをほって、ほったすなで山を作ったのが楽しかったです。先生たちがコロナたいさくをするようによびかけている中でも、遠足にいけるようにしてくれたことが、とてもうれしかったです。

3-2 A・I



海の公園に行って、造形活動をしました。ぼくは、そこではんの人とすなはまにあなをほって、そこに入ってすなをかぶせました。すなは、あったかくて気持ちよかったです。山も作ったけど、そんなに大きくできませんでした。貝がらを拾って耳にあてたら、海の音が聞こえました。

3-3 H・K

